

口傳云、所司參上相女官了後奏事由、御浴之間、藏人一人候而鳴弓弦、事了、未御入之前、藏人間云、誰誰々侍留、名對面時、主殿寮官人隨次稱名、次御厨子所參上、供御河藥事了、

供御湯事

御槽、六月十二月替分、主殿寮供當官人已下女官候進河藥、藏人鳴弦若西御浴了、藏人間主殿官人名謁、

〔禁秘御抄〕一恒例每日次第

早旦供御湯、主殿官人奉行之近代多經釜殿運湯、須麻志女官二人取傳、藏人為鳴弦候、戶外、内侍申具之由、御船一、桶二、内侍候御垢、典侍或上臈女房進御湯帷、奉河藥、次典侍取河藥器、抛板于時、藏人鳴弦、

〔日中行事〕御湯殿へおりさせ給て、御ゆめしぬれば、典侍もしは上臈の女房御ゆかたびらをたてまつる、四あしにすへたる御かはくすりをとりてまいらせてなぐる時、かはらけのをとを聞て、とのもりのすけなるくら人といづれにても弓のつるをうつ、

〔日中行事略解〕河藥の事を考ふるに、邪惡の氣を避る藥なるべし、されば古人の説の香藥ならん、薰藥といへど、かはらけにもるとあれば、燒物とは見えす、浴後身にぬりて邪惡をさくる藥なるべし、宋洪芻が香譜に、英粉、青木香、麻黃根、附子、甘松、霍香、零陵香、右除英粉外、同擣羅爲細末、用夾絹袋盛、浴了傳之、此等の藥などを御身にぬりたまふにや、

名器

〔伊呂波字類抄雜物〕泔器 ヲスルツキ

〔撮壤集家中〕泔器 ヲスルツキ

〔書言字考節用集七〕泔ハスルツキ坏ハスルツキ髪ハスルツキ水ハスルツキ之器

〔段注説文解字十一〕上、泔、浙米汁也、内則曰、其間、面垢、燂、潘、請、饋、鄭云、泔、周謂、潘曰、泔、今各處語言、泔、米瀾也、按、瀾者、瀾之省、○中略